

「全社員が自身の本業に集中できる環境づくり」を目指して—— 請求書業務の効率化だけで終わらない クックパッドが挑む経理業務改革とは

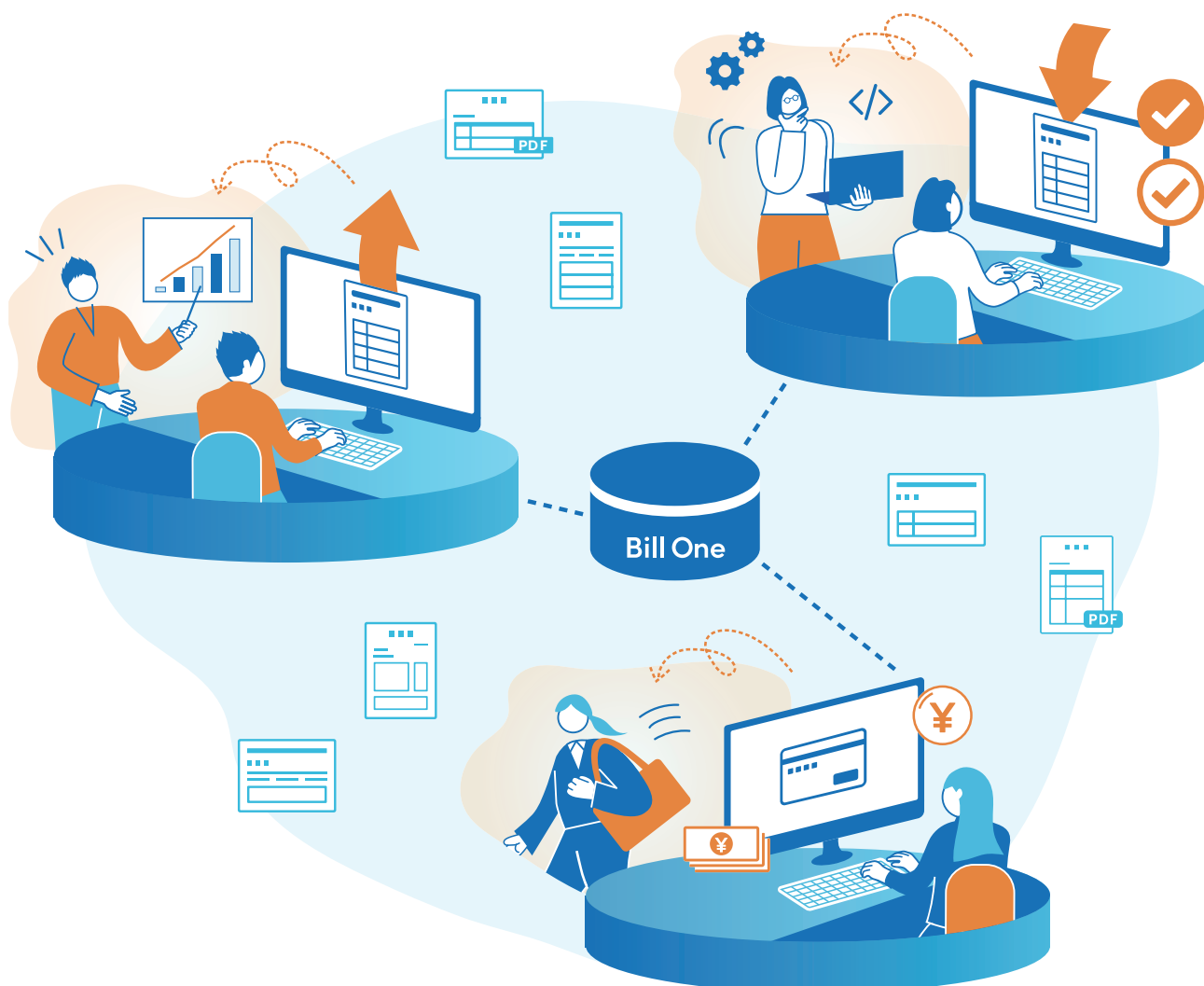
「誰もが本業に集中し、自社のプロダクトの発展に寄与できる環境を作る」。

クックパッド株式会社の経理部門は、この思いを胸に、会計業務のデジタル化を進めてきた。

だが、請求書の処理および一元管理については、大きな課題を抱えていたという。

そこで経理部長・姫嶋理恵さんはBill Oneを導入し、課題の解決とともに月次決算の早期化も実現。

Bill Oneを選んだ決め手や実感しているメリット、更なる経理業務改革への展望を伺った。



クックパッドが Bill One に期待したこと

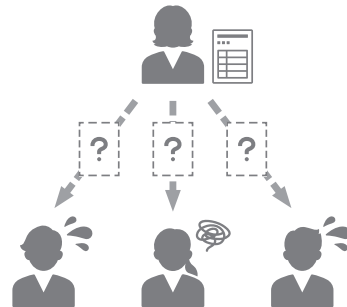
クックパッドが抱えていた請求書にまつわる課題

受領数の増加に伴う
管理の煩雑化、業務負担の増大



誰が、どんな請求書を何枚持っているか
経理が把握しづらい状況

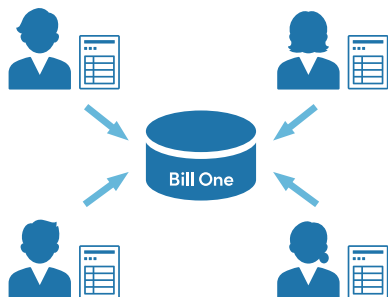
異動や退職時の引き継ぎ不足による
担当者の不透明化



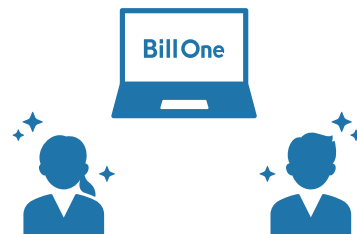
処理されず
宙に浮いたままの請求書が発生

Bill One 導入のねらい

請求書の所有者判別機能で
個々の受領状況をタイムリーに把握し
未処理の請求書をゼロに



経理部と各事業部
どちらも使いやすいUI/UXで
両者ともに請求書業務の負担を軽減



請求書を適切に管理し、業務をさらに効率化するため Bill One の導入を決定

「全社員が自身の本業に集中できる環境づくり」のためデジタル化を推進。「債務管理」が障壁だった

— まずは社内における姫嶋さんの役割を教えてください。

クックパッド株式会社（以下、クックパッド）は「毎日の料理を楽しむに作る」をミッションに掲げ、料理レシピ投稿・検索サービス「クックパッド」をはじめ、さまざまなプロダクトを展開しています。

私は当社の経理部長として、全社員が自身の最も向き合うべき業務に集中し、プロダクトの発展に寄与できるような環境をつくるために、経理業務の効率化を推進してきました。

— 姫嶋さんが目指す環境づくりについて、もう少し詳しく教えてください。

企業として成長していくためには、ユーザーに対してより大きなインパクトを与えるプロダクトを提供し続けなければなりません。ですから経理以外の、特にプロダクトの開発に携わるメンバーには、できる限り本業に集中し、熱狂しながらイノベーションを生み出してほしいと考えています。しかし、例えば立替経費の申請や、請求書の受領、確認、提出といった経理にまつわる作業は、時にメンバーの集中をそいでしまうものです。経営上、外せない業務ではあるものの、どうしても手間と時間がかかってしまいます。

そこで、私たち経理部門は、社員の対応が必要な経理業務を可能な限り効率化していくことで、「全社員が本業に集中できる環境づくり」に貢献しようとしています。

— 具体的には、どのような効率化に取り組まれてきたのでしょうか。

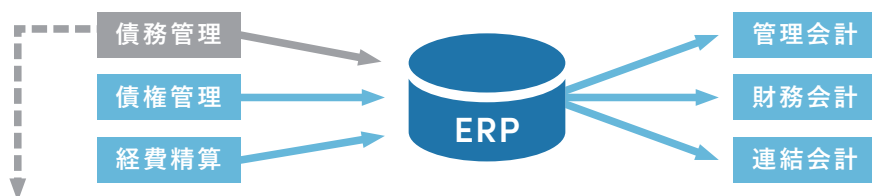
私が入社した2017年以降、さまざまな業務プロセスを積極的にアウトソーシングし、デジタル化・自動化を進めてきました。私たちは、債務管理、債権管理、経費精算、管理会計、財務会計、連結会計という6つの領域を経理業務の全体像として捉えており、この中心にERP（各業務におけるデータの一元管理を目的とした統合基幹システム）を据えています。このうち、経費精算や会計関連の業務に関しては、システムの導入によって業務が滞りなく進むようになり、デジタル化も順調に浸透していました。

— 順風満帆に思えますが、課題はあったのでしょうか。

業務領域の中でも、債務管理には当時から課題感を抱いていました。特にネックだったのが、受領した請求書の処理と管理についてです。当社では、発注した本人が責任を持って請求書を受け取り、経理に支払いを依頼するという体制をとっています。ただ、事業の拡大に比例し、人によっては新しい支払先がどんどん増える場合もあります。加えて、組織改変に伴う人事異動も多く、担当者の変更が高頻度で発生します。

このような状態ですと、まず、個々の管理が煩雑化して負担が増大する上に、経理としても、誰がどんな請求書をどのくらい所持しているのか、把握しづらくなってしまいます。

Bill One 導入前の経理体制



会計システム導入によりデジタル化が順調に進むも、「請求書の処理」に課題あり

Bill Oneの導入で請求書業務が効率化し 社内から「楽になった」の声が相次ぐ

— 請求書の受領が個人単位だと、管理が難しいですね。

はい。加えて、例えば引き継ぎが不十分であったために担当者が不透明化してしまうと、請求書が会社に届いても処理されず、宙に浮いたままになる可能性も生じます。

請求書の対応が遅れると取引先との信用問題にも発展し得ますし、当月の決算に反映すべき金額が漏れてしまうリスクもあります。この課題は優先度を上げて解決すべきと考え、情報収集を続けていました。

— そんな中、2021年頃にサービス提供を開始したばかりのBill Oneを導入いただいたのですね。

はい。今でこそさまざまな請求書の受領サービスがありますが、当時、Bill Oneには唯一、所有者判別機能があり、届いた請求書が誰宛のものなのかが分かるという特長がありました。個々の受領状況をタイムリーに把握できるという点において、導入の大きな決め手の1つとなりました。

また、検討の過程で営業の担当者や、経理部出身のBill One開発者とお話する中で、Bill Oneは経理部と各事業部、どちらの目線も取り入れたUI/UX設計であると感じました。両者の請求書にまつわる負担を軽減するとともに、業務の効率化にもつながると信じ、導入を決定しました。

結果的に、この決断は大正解でした。今ではBill Oneを導入したことによるメリットを、大きく分けて3つ感じています。

— Bill Oneがもたらしたメリットを詳しく教えてください。

1つ目は、請求書単位で担当者としてスピーディーなやり取りができるようになったことです。Bill Oneに届いた請求書をリアルタイムで追えるので、誰が、どれだけ所持しているのかを把握した上で、担当者と直接連絡を取ることができます。コミュニケーションにかかる負担も軽くなりました。

2つ目は、すべての請求書の処理ステータスが可視化され、提出漏れや行方不明を防止できるようになったことです。Bill One上で所有者情報はもちろん、開封状況や支払いに必要な回覧状況まで一目で分かるため、経理部も担当者もスムーズに状況確認ができます。処理が止まってしまっている人がいれば、すぐにアナウンスができますし、紙の請求書が袖机の中で眠っている、というような問題もなくなりました。

3つ目は、経理部も各事業部も請求書業務にかかる負担が減り、プロダクトと向き合う時間を増やせたことです。導入の決め手にもなった部分ですが、Bill OneはUI/UXが誰にとっても分かりやすく、直感的な操作が可能です。導入後に行ったのは、社内ツール上で専用の質問チャンネルを設置したのみでしたが、現場担当者にも自然と浸透していきました。実際、社内からも「業務が楽になった」「対応漏れが減った」「担当者的変更が簡単で助かる」という声が相次いでいます。物理的にも精神的にも負担が軽減されたぶん、プロダクト開発に向き合う時間を多く捻出でき、理想の状態に近づいていると感じます。

Bill Oneがもたらした大きなメリット

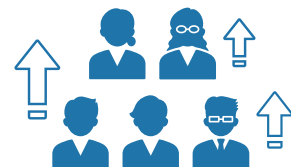
担当者として請求書単位でのスピーディーなやり取りが可能に



個々の処理ステータスを可視化し提出漏れや行方不明を防止



経理部、各事業部ともに負担が減りプロダクトと向き合う時間が増加



「債権管理」の領域も Bill One に一元化。 クックパッドの経理業務改革は続く

— Bill One は経理担当のみならず、現場のユーザーにも歓迎され、請求書業務の効率化が進んだのですね。

その通りです。さらに、Bill One は月次決算の早期化もかなえてくれました。各担当者宛に届いた請求書を、経理部がシステム上ですぐに見覧できるようになったことで、情報をキャッチするのが導入前より数日早くなり、概算計上の実施スピードが速まりました。月次決算の報告や四半期決算を進める上で漏らしてはいけない、金額の大きな請求書の内容も早期に得られるようになり、大変助かっています。

— クックパッド様には、法人カードである Bill One ビジネスカードや請求書発行機能もご利用いただいていますね。

はい。現在は請求書の受領だけにとどまらず、法人カード決済や、請求書の発行という債権管理に当たる部分も Bill One でカバーしようとしています。直近では、月に100件単位で発生する法人カード決済の精算フローにおける課題を解決するために、Bill One ビジネスカードの導入を決定しました。加えて、インボイス制度に対応する適格請求書の発行を正確に行うため、請求書発行機能も導入し、運用を開始しています。それまでは事業部ごとに異なるツールを使って請求書を作成していたので、統一したいという思いもありました。今後も Bill One を活用し、経理業務の一元化に注力していきたいと思っています。



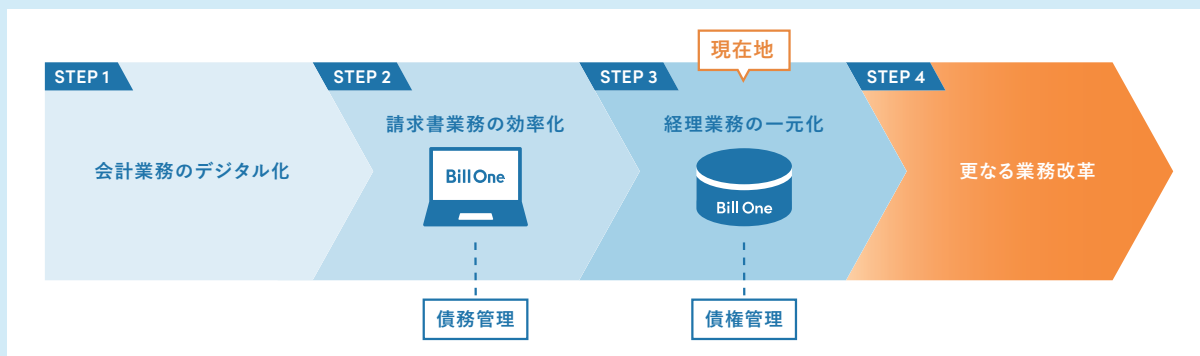
お話を伺った、クックパッド株式会社 経理部長の姫嶋理恵さん

— 最後に、姫嶋さんが今後の Bill One に期待することや、クックパッドが描く展望を教えてください。

Bill One の導入から数年が経ちますが、ユーザーの抱える課題やニーズをいち早く読み取り、新機能などにしっかりと反映しながらプロダクトそのものが進化していると感じ、信頼しています。また、今後も進化し続けてもらうため、私自身も意見や要望を伝えていくことが重要だと思っています。

クックパッドは、会計業務のデジタル化に始まり、請求書業務の効率化、経理業務の一元化を進めてきました。しかし、まだまだ道半ばです。「全社員が本業に集中できる環境づくり」を実現すべく、Bill One が私たちの更なる業務改革に伴走していってくれることを大いに期待しています。

クックパッドが歩んできた経理業務改革の道のり



請求書受領から、月次決算を加速する

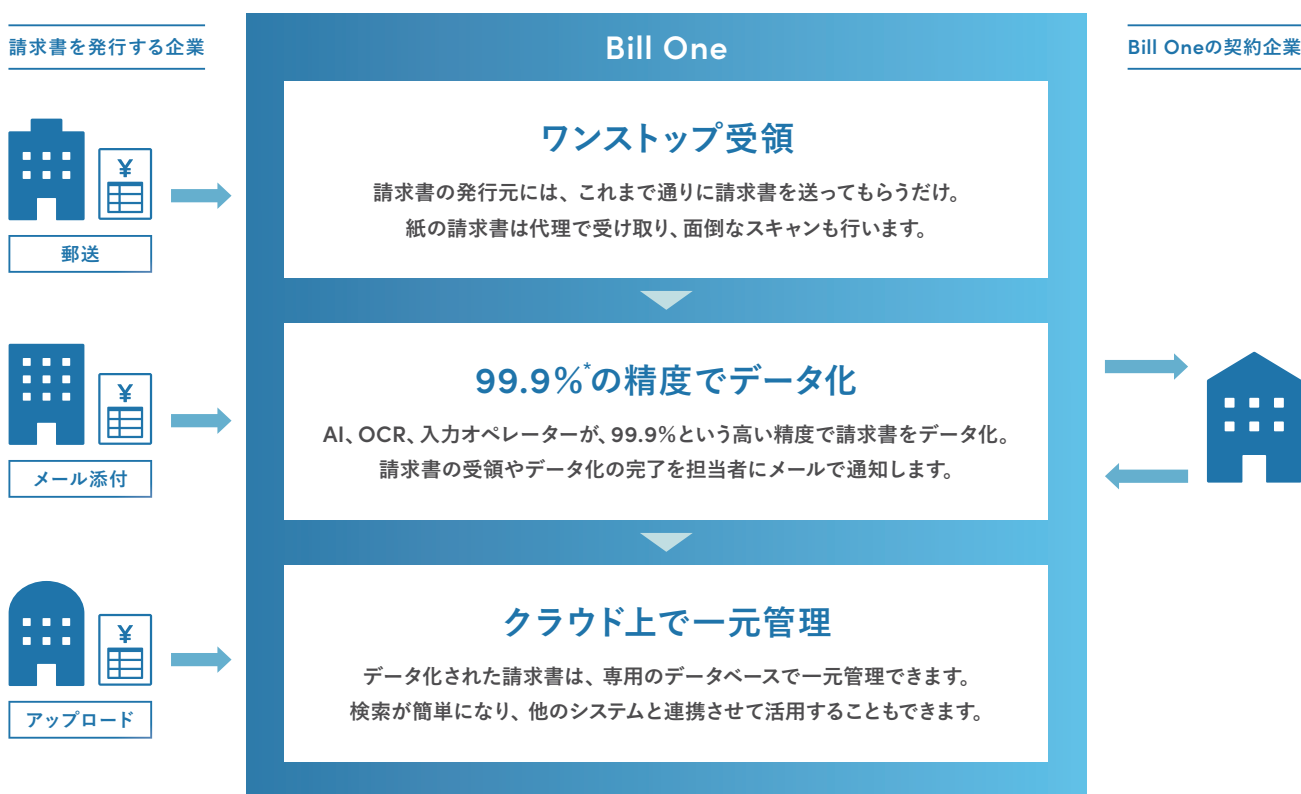
Bill One

powered by Sansan

Bill Oneは、Sansan株式会社が提供するインボイス管理サービスです。

さまざまな形式・方法で届く請求書をオンラインで受け取り、

請求書業務を効率化することで、企業経営における意思決定のスピードを向上させます。



* Sansan株式会社が規定する条件を満たした場合のデータ化精度

3つのメリット



あらゆる請求書を
オンラインで受け取れる



法改正に対応した
業務フローを構築できる

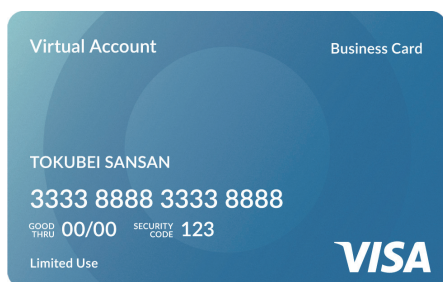


経理部門に限らず
組織全体の生産性が上がる

月次決算を加速する Bill One ビジネスカード

企業のクレジットカード利用に関する課題を解決し、月次決算を加速する法人カードです。
Bill Oneの利用企業は、無料で発行・利用できます。

※ Bill One を利用していない場合は、Bill One の契約が必要となります。



バーチャルカード



リアルカード

※ 3Dセキュア2.0対応



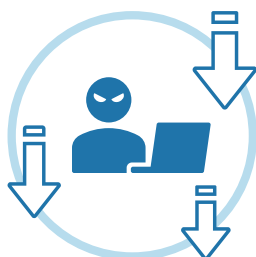
デジタル化による業務効率化

アップロードされた証憑と利用明細を自動で照合し、金額が異なる場合はアラートを表示します。カード利用後は、利用者に証憑提出を依頼するメールを自動で配信するため、証憑の回収からチェックまで一連の作業をデジタル化し、業務を大幅に効率化します。



インボイス制度、電子帳簿保存法に対応

アップロードされた証憑が適格請求書の要件を満たしているかを自動で判定します。また、証憑は電子帳簿保存法で定められた要件を満たして電子保存します。法改正にはBill Oneが対応するため、その都度、業務フローを変更する必要はありません。



不正利用のリスクを低減

発行したカードごとに、利用者や利用上限額を設定し、利用先のジャンルを絞ることにより、用途を制限できます。さらに、利用状況をリアルタイムで管理することで、不正利用を早期に検知できます。管理の工数を減らしながら、不正利用のリスクを低減します。

請求書に関する法改正には、Bill Oneが対応します。

2022年1月1日に改正が施行された電子帳簿保存法や、2023年10月1日に開始されたインボイス制度など、Bill Oneを導入することで、法制度に対応した体制を構築することができます。

インボイス制度

2023年10月1日から消費税の仕入税額控除の方式としてインボイス制度が開始されました。適格請求書（インボイス）は、税務署長に申請し、登録された課税事業者のみが発行できます。請求書の受領企業が仕入税額控除を受けるためには、インボイス制度への対応が必要になります。

適格請求書の受領だけでなく、発行にも対応しています

	発行		受領	
フォーマットに沿った 適格請求書の作成		適格請求書の発行 (紙・電子の両方に対応)	登録番号の照会 (国税庁のシステムとのAPI連携)	適格請求書の要件を 自動でチェック

電子帳簿保存法

電子帳簿保存法（電帳法）により、電子請求書は電子保存しなければならなくなりました*。紙の請求書にも対応しながら、電子請求書を取り扱う必要があるため、コストをかけずに混在する紙と電子の請求書を一元管理する方法が求められています。

電帳法で定められた保存要件を満たして、請求書を電子保存します

			
正確なデータ化	タイムスタンプ	変更履歴・対応履歴の保存	請求書の検索

*2022年1月から2023年12月31日までの間において電子取引によって授受した電子データ（請求書を含む）を保存要件に従って保存することができなかったことについて、やむを得ない事情があると認められ、かつ、その電子データについて出力書面（整然とした形式・明瞭な状態に限る）を提示または提出できる場合には、引き続き保存期間終了まで出力した書面による保存が可能となります（令和4年度税制改正）。

*2024年1月1日以降に授受した請求書を保存要件に従って保存することができなかったことについて、相当の理由があると認められ、かつ、その請求書について電磁的記録のダウンロードの求め及び当該電磁的記録の出力書面（整然とした形式・明瞭な状態に限る）を提示または提出できる場合には、保存要件を不要として、電子データの保存が可能となります（令和5年度税制改正）。

Bill One
powered by Sansan

お問い合わせ | デモ依頼やお見積りについては、お気軽にお問い合わせください

bill-one@sansan.com  0800-100-9933

<https://bill-one.com>

Sansan株式会社 [本社] 〒150-6228 東京都渋谷区桜丘町1-1 渋谷サクラステージ28F

※ 本資料は2024年3月に作成されました。掲載されている内容は作成時点での情報です。
※ 本資料の記事・写真等の無断転載、複写、複製を禁じます。

© Sansan, Inc.